

「税と教育」

長野県屋代高等学校附属中学校 2年 AM

私たちが学ぶ校舎にはもともと冷房設備がなく、クーラーが導入されたのは今年の夏のことだ。おかげで教室は涼しく快適になり、集中して授業にとりくめる。この環境が税金で整えられていたことを、この作文を書くにあたってはじめて知った。

税について調べるうち、私の小学校のことを思い出した。今ある校舎の一部は、私が二年生から四年生の時にかけて改築された。古い校舎で、耐震基準を満たさないかもしれないというのが理由だった。他のことは忘れてしまったが、うす暗いトイレがすべて和式だったことは印象に残っている。

三年間プレハブ校舎で学び、新校舎に移った。木材が使われたびかびかの校舎はどこも真新しく目を引いたが、一番印象に強いのはバリアフリーに対応した設備である。洋式になったトイレの他に、多目的トイレができた。その他、廊下や階段に設置された低い手すりや車いすの子のためのスロープやエレベーターなどは、改築前の校舎にはなかったものだった。様々なハンディキャップをもつ子供たち全員が快適に学べるよう配慮された学校だ。それらはすべて税金によって叶えられていたと思うと、改めてそのありがたみを実感する。税金がなければ、こうしたバリアフリーの校舎はおろか、裕福な家の子どものしかまともな教育はうけられないだろう。実際、そのような国は世界にざらだと聞く。整えられた環境で学べる権利が国民すべての平等に与えられていることは、当たり前ではないのだ。

権利を享受するからには、義務を果たさなければならない。働いていない私の義務は、この環境の下で精一杯学ぶことだろう。そして、将来納税の義務を果たせる大人になることだ。今、私たちが何一つ不自由なく学べるのは、昔税金で学ばせてもらった大人たちがきちんと税を納めているからだ。そのように、昔から大人たちは将来を担う子供たちを、税金を払うという方法で支えてきた。だから、私もその大きな流れにのって、私は社会人として成熟した頃に、学ぶ環境にある子供たちを支援していきたい。